

# 松浦中央学校給食共同調理場 譲渡記念対談

多くの自治体で財政健全化、歳出削減策などが課題となる昨今、公共施設整備を効果的に行うために民間の資金やノウハウを活用する「民間活力」が注目されています。導入を検討する全国の自治体に先駆けて県内では松浦市が2006年12月に大和リース(本社大阪)とリース契約により市内の小中学校に給食を供給する松浦中央学校給食共同調理場(以下、給食センター)を同市志佐町に整備しました。建設から10年となる今年12月にリース契約を終え、建物は同社から市に無償譲渡されました。今回は譲渡を記念して同市の友広郁洋市長と同社の森田俊作社長にリース方式の意義やメリットなど、官民共同の新しい公共による活性化について語っていただきます。聞き手は石丸俊也長崎新聞社営業局長。

## 整備にリース方式採用



今年12月に無償譲渡される予定の市立松浦中央学校給食共同調理場=松浦市志佐町

### ●松浦中央学校給食共同調理場

2006年12月、大和リースがリース方式により整備した鉄筋コンクリート2階建ての給食センター。07年1月に供用開始し、松浦市内の小中学校に給食を供給している。1日最大2500食を供給できる。オール電化の厨房機器やドライシステムを導入。作業エリアと外来者エリアの完全分離による汚染遮断など、衛生管理を徹底している。調理状況の見学や研修ができる多目的室を設置するなど、食育を推進する教育施設としても活用されている。16年12月に同社から市に無償譲渡される予定。

# 民間活力による新しい公共を



松浦市長 友広 郁洋氏

ともひろ・いくひろ  
1962年松浦市役所入庁。商工観光課長、企画振興課長、旧市助役などを経て2006年に市長初当選。現在3期目。佐賀県立伊万里農林高卒。73歳。

## 財政負担平準化に効果

石丸 この10年間で給食センターが果たした役割を改めて一語一語話そう。事柄を積み重ねた上で、リース方式を採用する自治体は多くなり、民間の資金やノウハウの活用が、当時の「民間活力」の導入はPFI方式(※1)が一般的で、松浦市の給食センターのリースはこの分野の参考から約2年後の事業でした。まさに市のご英断があったから、行政は有地を持っていないだけで入札はなっています。行政は有地を持っていないだけで入札はなっています。行政は有地を持っていないだけで入札はなっています。

友広 大きく三つの効果があつたと思います。一つ目は行政推進、二つ目は民間資金やノウハウの活用、三つ目は民間の資金やノウハウの活用です。民間の資金やノウハウの活用です。民間の資金やノウハウの活用です。民間の資金やノウハウの活用です。民間の資金やノウハウの活用です。民間の資金やノウハウの活用です。

## 官民の強み重ね活性化



大和リース株式会社 代表取締役社長 森田 俊作氏

もりた・しゅんさく  
1979年大和リース入社。事業開発部長、規格建築事業部長、流通建築リース事業部長などを経て2008年から現職。大阪経済大卒。60歳。



石丸 PFI方式、リース方式の事例を教えてください。森田 PFIでは行政庁舎や学校、給食センター、スポーツセンター、リース方式でも同じように行政庁舎、学校、消防署、大学の外国人学生寮、道の駅などを手掛けた。このほか、公有地を賃借し、公共施設と民間施設を複合して建てる方式で、市立図書館とシネコンが入居した商業施設などがあつた。これは、民間の資金やノウハウを有効活用できる。建物リース期間開始前には予算が不要。年度予算の低減と平準化が図れる。

友広 学校給食の安全を確保できたことが一番の成果だと思っています。また、固定した財源だけでなく民間資金やノウハウを導入した経験により、市職員の発想や考え方に幅が生まれ、事業を進めるに当たって一般財源を使わず、起債も必要なくなりました。民間の資金やノウハウの活用が、当時の「民間活力」の導入はPFI方式(※1)が一般的で、松浦市の給食センターのリースはこの分野の参考から約2年後の事業でした。

友広 昔は行政と民間の間に線引きがあつたと思いましたが、今は複合、連携の時代だと思っています。これから後には建物だけでなく、ソフト面の取り組みにも期待したいですね。今回の給食センターのリース方式が評価できる取り組みだと思つています。今後は積極的にリース方式を展開していきたいと考えています。松浦市は現在、一定の目的をもち、住宅の整備を検討していますが、市が準備した土地に民間で建物や施設を建て、リースをする方法、ほかにも学校の空調機や教育機器などもリースが活用できると思います。市の魅力アップを図るため、色々なことに取り組んでほしいですね。民間に任せたい分野を伸ばしていきたいですね。民間に任せたい分野を伸ばしていきたいですね。民間に任せたい分野を伸ばしていきたいですね。

石丸 最後に行政は複雑多岐化し、一つの仕事をやり遂げるためには関係課の連携が必要で、行政、経済、教育、福祉、すべての分野で市民と民間と行政が連携して、民間の資金やノウハウの活用が、当時の「民間活力」の導入はPFI方式(※1)が一般的で、松浦市の給食センターのリースはこの分野の参考から約2年後の事業でした。

友広 最近の行政は複雑多岐化し、一つの仕事をやり遂げるためには関係課の連携が必要で、行政、経済、教育、福祉、すべての分野で市民と民間と行政が連携して、民間の資金やノウハウの活用が、当時の「民間活力」の導入はPFI方式(※1)が一般的で、松浦市の給食センターのリースはこの分野の参考から約2年後の事業でした。

友広 最近の行政は複雑多岐化し、一つの仕事をやり遂げるためには関係課の連携が必要で、行政、経済、教育、福祉、すべての分野で市民と民間と行政が連携して、民間の資金やノウハウの活用が、当時の「民間活力」の導入はPFI方式(※1)が一般的で、松浦市の給食センターのリースはこの分野の参考から約2年後の事業でした。

友広 最近の行政は複雑多岐化し、一つの仕事をやり遂げるためには関係課の連携が必要で、行政、経済、教育、福祉、すべての分野で市民と民間と行政が連携して、民間の資金やノウハウの活用が、当時の「民間活力」の導入はPFI方式(※1)が一般的で、松浦市の給食センターのリースはこの分野の参考から約2年後の事業でした。

## 豊富な実績とノウハウで価値ある官民連携を推進



「民間活力」の導入とは  
公共施設の整備等を効率的・効果的に行うために、民間の資金やノウハウを活用することです。  
「官と民とのパートナーシップ」という考え方  
PPP(Public Private Partnership)  
官 Public 連携 民 Private  
◆メリット  
事業のシンプル化  
民間へのリスク移転  
事業のスピード化  
コストの削減  
◆代表的な手法  
PFI方式  
リース方式  
比較的大規模・中・長期間事業向き  
比較的小規模・短期間事業向き

大和リースは、社内に専門組織「民間活力研究所」を設置し、官民連携事業に積極的に取り組んでいます。  
大和リースは、大和ハウスグループの一員として、高品質な建物をスピーディーに供給する「規格建築事業」、土地活用と事業の成功をサポートする「流通建築リース事業」、自動車リースや立体駐車場を提案する「リーシングソリューション事業」、「環境緑化事業」等、幅広い事業を展開しています。PFIやリース等の官民連携事業については、社内に専門部署「民間活力研究所」を設置し、豊富なノウハウと実績をもとに事業化をサポートします。  
リース方式による整備実績  
■計算科学センタービル(神戸市)  
■札幌市民ホール(札幌市)  
■ゆめアール大橋(福岡市)

リース方式によるシンプルなスキームを提案  
建設時に多額の費用がかからず、建物メンテナンス費用を含めて、コストを平準化。  
リース方式によるコスト比較イメージ(10年リースの場合)  
請負方式 短期に多額のコスト  
リース方式 コストの平準化  
1年目 2年目 3年目 8年目 9年目 10年目  
お問い合わせ先  
大和リース株式会社 長崎支店  
〒850-0952 長崎市戸町4-27-32  
TEL/095-879-5500  
営業時間/9:00~18:00(土日祝休)  
大和リース 検索